

第 1 1 回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第 1 1 回青森県民駅伝競走大会が 9 月 7 日（日）、青森市で行われ、県内全市町村の代表選手が郷土の誇りをかけて健脚を競った。

今回、開会式会場をアスパムに、閉会式会場を総合運動公園陸上競技場に変更しての開催となった。

スタート並びにコースは、昨年同様本県の産業振興の拠点である、いわば「青森県の顔」とも言うべき県観光物産館アスパムの玄関口をスタート地点とし、国道 4 号使用の第 1 区コースを皮切りに、8 区間（33.8 キロ）にわたって実施した。

当日は、日和に恵まれ、気温 22 度前後、湿度も 60 パーセントと選手にとってはまずまずのコンディションであった。

スタート地点は、陸奥湾から流れる潮の香りが選手たちの心を和ませ、正午ちょうど大会長・三村知事による号砲が鳴り響くと、巨大な正三角形の建築物を背に、県下 67 市町村を代表する第 1 区走者が閃光を放つように飛び出した。

第 1 区〔アスパム前～合浦公園 / 高校生以上男子〕は、距離が短く直線でありスピードがより要求され、仕掛けどころが注目される区間である。

序盤は全選手が固まった状態であったが、その後、青森市の岩瀬真選手（陸上自衛隊青森）、むつ市の板垣陽介選手（海上自衛隊大湊）、三戸町の中山広光選手（三戸町役場）らが先頭に立ってレースを引っ張る展開となった。

第 2 区〔合浦公園～野内 / 中学生男子〕は、1 位と 2 位の差は 2.4 秒差。トップでタスキを受けたのは青森市の阿部浩行選手（筒井中 2 年）。次いで、むつ市の成田拡彰選手（大平中 3 年）と三戸町の熊林真澄選手（三戸中 3 年）が追う展開となり、中盤、三戸町の熊林真澄選手がトップに躍り出た。

また、この区間で力走を見せた東北町の石田亮選手（東北中 3 年）は 1.2 位から 4 位まで順位を上げた。

第 3 区〔野内～諏訪沢 / 高校生以上男子〕では、三戸町の百沢和宏選手（神奈川大学 4 年）がトップでタスキを受けたが、序盤、むつ市の金澤貴選手（むつ消防署）が三戸町に並び、その後トップに立った。

むつ市は更に後続を引き離そうと懸命な力走を続け、つづく三戸町と青森市は熾烈な 2 位争いを繰り広げていた。

第4区〔諏訪沢～戸山団地／高校生以上男子〕は、むつ市の船木和寿選手（大湊中学）が、後続と43秒差でタスキを受けると、落ち着いた走りで次の中継所を目指した。

トップのむつ市を追い、青森市、東北町、野辺地町の懸命な追い上げが続いた。

第5区〔戸山団地～幸畑／中学生女子〕は、大会コースで一番短い2.5キロの区間であるが、トップを行くむつ市の對馬悠里選手（むつ中3年）は、昨年もこのコースの経験者であり、ぐんぐんと2位との差を広げていった。

2位から4位までは依然変わらず、9位につけていた浪岡町の佐藤真己選手（浪岡中1年）が区間新記録を出し、6位に躍進した。南郷村の村山星蘭選手（中沢中1年）も順位を2つ上げ5位につけた。

第6区〔幸畑～流通団地／高校生以上男子〕では、先頭から、むつ市、青森市、東北町、野辺地町までは依然変わらず。浪岡町の出町晋士選手（北海道酪農大4年）が順位を上げ5位につけた。

また、その他八戸市もすぐ後ろから追う展開となっていた。

第7区〔流通団地～細越／中学生以上女子〕は、依然として、むつ市と青森市が1分以内のところまで壮絶な先頭争いを繰り広げ、その後ろを東北町が追う展開となった。

また、八戸市の根城早織選手（富士大3年）が好走し、順位を2つ上げ4位に浮上、区間新記録を出した。

第8区〔細越～県総合運動公園陸上競技場／一般男子・高校男子〕では、むつ市がトップでタスキをつなぎ、最終ランナー山内翔平選手（函館ラサール中1年）が青森市を総合で40秒引き離し3年連続三度目の総合優勝を手にした。

また、2位は青森市。3位東北町、4位八戸市。続いて5位は野辺地町の順でそれぞれゴールした。

《市の部》

むつ市は、昨年の第1位の貫禄を見せ、1、2区でやや後退した以外は全てトップを保持して堂々の3連覇を成し遂げ、総合成績でも2連覇を達成した。

しかし、今回は最終区まで青森市の追い上げなどもあり、最後まで目が離せなかった。3位は昨年に続き八戸市であった。

《町の部》

東北町が5区で町の部トップに立って以降トップを譲ることなく、総合でも先頭のむつ市、青森市を必死に追い続け、9年連続10度目の優勝を遂げた。

また、5区以降は、野辺地町を浪岡町が追う展開で2位争いを繰り広げたが、最後は浪岡町が一步届かず、野辺地町に軍配が上がった。

大鰐町は、1区で2位と好走したが、その後が続かず4位に終わった。

《村の部》

南郷村が4区でトップを走る福地村を追い抜き、その後も勢いに乗ってリードを広げ、村の部4連覇を達成した。また、福地村と六ヶ所村は、後半以降2位の座を守ろうと競い合ったが、最後は29秒程の差で福地村が制した。